

1 有効求人倍率に見る雇用創出課題について

ハローワーク磐田管内の有効求人倍率は下記のようになっている。

	平成 25 / 6 月	26 / 1 月	26 / 6 月	( 7 月 )
全 国	0.92	1.04	1.10	( 1.10 )
静岡県	0.83	1.00	1.08	( 1.06 )
磐 田	0.57	0.90	0.77	( 0.82 )
( 浜 松 )	( 0.80 )	( 1.15 )	( 1.05 )	( 1.09 )

リーマンショックの影響を最も受けた県の一つであった静岡県も、大企業中心なるも企業収益は回復してきている中で、当地域の雇用面においては大きく停滞を余儀なくされていることを有効求人倍率は示している。

1.0を下回る状況から脱していないこの半年の実態を危惧するのである。景気回復と雇用改善とがつながる流れ、仕事が大企業から中小へ流れるという従来の流れが、製造業の海外シフトにより変わったとする日本の製造業の典型的な変化が、この磐田に出てしまっていると思料している。国も“地方再生”は一つの柱として予算拡充されると報道されており、それを先取りする位の積極的な対応が必要と考えるが、市はどのような対応をしているのか、検討をしていくのか、下記について伺う。

(1) 有効求人倍率の現状に対する市の見解について

「住んで良かった」「住み良い地域」を目指す時、その最大の要件は何といっても良い仕事の間・働き場所があることである。その視点からすると現数値は大変気になるものであり、従来よりも一歩踏み込んだ、一段上の雇用創出対応が求められる状況を示しているとみるのであるが、企業応援団として企業訪問を実施し掴んできた実情とあわせて見解を示されたい。

(2) 産業構造転換・新産業創出等の雇用創出対応について

産業構造の転換については、民間企業の本能・自助努力に期待するものであるが、苦悩する企業に寄り添う施策・手助けする施策としてはどのようなことをやってきたか、やっていこうとしているのか伺う。

新産業創出について、磐田北部地域への工業団地開発・企業誘致・インフラ整備等の実施に期待するが、“農”についても6次産業化・地産地消振興まで含めるとすそ野は広がると考えるが、そうした検討状況について伺う。

(3) 女性の活躍の場、女性活用の雇用創出対応について

磐田の有効求人倍率停滞は、この半年間、求人数が県や浜松市のよう増加傾向にないところに起因すると思料するが、パートの求職者数の増加に対し求人が減少しているというミスマッチも大きく影響している。就業を希望している女性は全国に主婦が主体で315万人いるということであるが、当市においても同様傾向と思料される。家庭も子育ても、そして仕事もしたいとするママたち、そして子育てを終了した女性をどう活躍させるかの視点で、彼女たちに行動を起こさせるキッカケづくりからの支援、そして、国がこれから進めようとしている施策を先取りするぐらいの気概で積極的に推進してほしいと考えるが、見解を伺う。

2 ひょうたん池整備とホテルの里づくりについて

平成7年、西貝地区自治会・ひょうたん池自然を考えよう会・西貝公民館の連名による、磐田・袋井線以南の安久路地域を「自然を生かした市民の憩いの場とすることを求める」とする請願が一部採択された。内容は「ひょうたん池の自然を現在の形に近い状態で保存し、親水公園にすること」「湛水防除地域を老若男女の区別なく憩える場所とすること」は願意妥当と認められ、「十七夜観音周辺を含めた自然を保護すること」については不採択という結果となった。その後平成18年に、わずかしかな前進しない状況に対し、市長・議長に推進要請をし、議長よりは改めて安久路調整池との連携の中で憩いの場にするに努力すると回答をいただいた経緯となっている。この間の「ひょうたん池を考えよう会」の活動には、多くの市民・児童らが、感謝の念を抱きながらひょうたん池を楽しんでいる状況にある。その安久路調整池が、時を経てようやく整備方向が決定されたこと

から、課題であったひょうたん池整備を推進していただきたく、下記の事項について市の見解を伺う。

(1) 湛水防除池との連携によるひょうたん池の拡充整備について

永年の課題であったトイレ・駐車場の問題は、湛水防除池のグラウンド化の進展に合わせて検討をお願いしたいものである。そして、平成13・14年に描いたひょうたん池の未来像づくり計画に沿った整備の検討をお願いし、ピオトープ拡張等の実現を図りたく、市の見解を伺う。

(2) ホタル飼育舎&観賞舎拡張によるホタルの里づくり推進について

平成11年に試行錯誤しながらスタートした「ホタルの里づくり」は、15年の時を経て、6,000匹の幼虫放流という専門業者も驚嘆する県内トップレベルの飼育実績をあげるまでになり、本年度の観賞来場者数は、1週間で4,000人を超える状況にある。これを磐田市のまちづくり資産として、ホタルスポットに発展させたく、老朽化し手狭になってしまった飼育舎&観賞舎を拡張して仮称「ひょうたん池ホタルドーム」への改善を図りたい。そして趣の異なる“ホタルの小川”のある竜洋昆虫公園と結んだ時、子どもたち・若者たちと自然がつながる磐田の夏の風物詩に発展する可能性を思う。折しも来年は「ひょうたん池の自然を考えよう会（会員142名）」は創立20周年となる。市の大きなバックアップをもって、市の資産にまで高めていただきたいと思うが、市の見解を伺う。